

第5期 第5回さいたま市外国人市民委員会 会議録

1 開催日時および場所

- (1) 日時：令和5年12月20日（水） 午後6時30分～午後8時30分  
(2) 場所：浦和コミュニティセンター 第15集会室

2 出席委員氏名

委員長：西川 ナンシ

委員：頼 沃徳楽、羅 昊、金 京垠、ノルル シヤズミラ

ディプティ アナンダ ムルティ、山下 美賢、柳田 リサ アン

3 議題

- (1) 第5期外国人市民委員会提言内容について

4 会議の公開

公開 傍聴者はなし

5 会議資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・第5期 第1回さいたま市外国人市民委員会での意見
- ・第5期 第2回さいたま市外国人市民委員会での意見
- ・第5期 第3回さいたま市外国人市民委員会での意見
- ・第5期 第4回さいたま市外国人市民委員会での意見
- ・第5期外国人市民委員会 第4回～提言までの流れ・予定
- ・第5期さいたま市外国人市民委員会提言書（案）
- ・第4期 さいたま市外国人市民委員会 提言書
- ・第1期～第4期さいたま市外国人市民委員会提言内容について

6 内容

- (1) 第5期外国人市民委員会提言内容について

《事務局説明》

事務局より、これまでの会議で出た意見と提言までの流れについて説明しました。また第5期さいたま市外国人市民委員会提言書（案）について説明をしました。

## (2) 意見交換

### [主な意見]

#### (提言書について)

- ・病院に関するところだが、病院の先生が国籍の違いによる食生活や文化の違いを知ってくれているとよい。そうすることで、文化の違いなどが原因による病気も見つけやすくなる。
- ・病院に受診したときに書くアンケートや、受診した際の医者とのやり取りで全てを伝えるのは難しい。自分の状態について詳しく伝えられるような事前のアンケートがあるとよい。
- ・外国人から、情報を引きだせるようなツールや方法があるとよい。
- ・外国人患者の対応に優れた病院にさいたま市からリワードや肩書を与えるのはどうか。そうすることで、外国人患者に対する病院のモチベーションにもつながる。
- ・前回の会議でも話があったが、例えば女性が通いやすい病院や女医のいる病院、外国人に対して丁寧に対応出来る病院には、それがわかるマークを市が与える。さいたま市が認定しているというブランドをつければ、病院も頑張ると思う。外国人もそのマークを目印に病院に通うことができる。ある程度の条件を満たしたら、市が認定してホームページに載せると効果的だと思う。
- ・大きい病院に行くときは紹介状が必要になるが、このシステムを知らない外国人も多い
- ・医療の相談窓口があるといい。例えばさいたま市に在留する外国人だけではなく、観光で来ている人も、そこに電話すれば正しい情報や病院のかかり方を教えてもらえるというようなところがあるといい。
- ・外国語で相談ができる、各分野に特化したコーディネーターが必要だと思う。言葉がわからないと、ネットで調べることもできないし、その国の言葉がわかっても結局仕組みがわからないと意味が通じない。  
わからないポイントを絞って教えてくれるというのが、医療でも学校でも仕事でも必要なのは確かなので、そのコーディネーターをできる人に知識を与える仕組みもつくってほしい。
- ・人となると話せる言語も限られてしまうので、コーディネーターのほかにLINEなど、メッセージのやり取りで相談できるところがあると、翻訳をしてやり取りをすることもできるので、よりスムーズな情報提供ができる。
- ・今コーディネーターの話が出たが、その話を提言書(案)1の(2)「外国人人材の発掘・育成」に入れて、現在書いてある内容を(1)の活躍できる場の充実のところと一緒に結んで提案書を作成したらどうか。人材の発掘と育成

は、ボランティアに限らない方が、外国人からするとメリットがあると思う。

- ボランティアに限らず、求められる仕事の内容、レベル、専門性に合わせて、無償じゃない方法を考えてほしい。仕事のレベルや負担によって、ある程度の手当がつかないと、優秀な人はなかなか集まらないと思う。皆さんの生活を良くするのに、助けてくれる優秀な人材を集めるものとするれば、ある程度の支払いがあってもよいのではないか。
  - 提言書には、ボランティアの機会の充実や育成について、ある程度の専門性と責任が求められる人材の育成についての2つを記載するのがよい。
  - 提言書(案)3の「外国人市民への情報発信・情報提供の充実」の(1)「役所での手続きについて」と(3)「学校生活の支援について」、以前の会議でオリエンテーションを実施していただきたいということを行った。市役所での手続きがわからないのであれば、わかるために何が必要かを考える必要がある。市役所の手続きについては、市役所の方で既に何か作っていると思うが、この情報が、言語的な問題や、展示、ディスプレイの問題で情報伝達出来ないというのは問題である。まず伝達出来るように、オリエンテーションを実施するのがよい。例えばさいたま市に移住してきた方々にオリエンテーションに参加してもらうことで、手続きがわからないという問題の7割以上のことを解決できると思う。
- 日本での学校生活特有の事情もあり、学校生活に関する理解も不足しているので、学校でのオリエンテーションも作ってほしい。入学する前に、親子一緒に、この学校はこういう状況だということがわかるオリエンテーションに参加するのがよい。それを終えて、外国人市民と学校や市役所が、ある程度の共通認識を持った上で、さらにここで難しい問題を見つける、というのが一番効率がよいと思う。
- ビデオもよいが、実際に目で見て触るといった体験に勝るものはないので、オリエンテーションをツアー型にして、実際の学校を見て回るようなものにするとうい。
  - オリエンテーションは英語や中国語など、言語に応じていくつかパターンがあるとよい。
  - 生活がある中で、何時間もオリエンテーションに参加するのは難しいという人もいる。本や、Webサイトのビデオで情報を得られるのであれば、そっちの方がよいという人もいる。
  - 本がいい人、ビデオがいい人、実際に学校の中を回りたいと思う人はオリエンテーションにするなど、選べるようにするとよい。
  - どのようにするかは市に任せるとして、何を誰に対して、いつするかということが大事。

- ・誰にといいるところは、来たばかりの人が大事で、例えばさいたま市に他の市から来た人、海外から来た人、ほかに新しく来て学校に入る人などそういった人向けに情報提供をすることが大事。
- ・転入してきた方が生活をスタートするために必要なものは、既にさいたま市で体系的なものを持っていると思うので、その辺りの日本語のものを英語、中国語などに翻訳すれば、既存のものから転用できる。
- ・学校生活に関して言えば、こういうルール、こういう習慣があるということを知ることができれば、あとは慣れていく。こういうルールがあるということすら知らないで、ゼロから痛い経験を何度もするというのが辛い。
- ・日本の学校で禁止されていることや、一般的にルールとして決まっていることは知らせてほしい。
- ・日本に来た時に赤ちゃんがいなければ、そのことに関するオリエンテーションは必要ないので、情報を知らせるタイミングも重要である。
- ・3の「外国人市民への情報発信・情報提供の充実」の(2)「生活に必要な情報の発信について」のところで、さいたま市にはいろいろな国の料理屋や物産店があるが、こういったお店の人に情報発信の協力をしてもらうのはどうか。そういったお店にはその国の人が多く集まるので、市の情報につながる二次元コードを設置しておくといよい。
- ・先日、ベトナム人の人が自殺して電車が止まっていたが、これも相談できるところがなかったというのも原因としてあるのではないか。
- ・やさしい日本語で構わないので、来日した外国人がメンタルヘルスケアをできる場所があるとよい。同じ境遇の人が集まって気軽に話ができる場所や、悩みを聞いてくれるような窓口があるとよい。
- ・まずは話を聞いてくれて、必要に応じて同じ境遇の外国人が集まる場所を案内したり、より専門的な相談が必要な方にはそういった相談窓口を案内したりできるところを作るとよい。
- ・学校にもそういったメンタルヘルスケアをできる相談室があり、娘と一緒に相談に行こうとしたが、娘が学校で話題になったらいやだからといって、行かなかった。学校ではない場所に相談できるところがあれば、もう少し通いやすくなる。

(そのほか提言書に追加したい内容について)

- ・「3 外国人への情報発信・情報提供の充実」には就労についても入れていただきたい。既存の相談窓口としてハローワークがあるが、そもそもハローワークでは、どういう情報を得られるのか、どういう相談ができるのか、外国人に届いていない。既存の相談窓口があっても、外国人には探しにくいので

で、情報発信の仕方を考えてほしい。

- ・周知の方法としては、先ほども話にあがったが、外国人が多く集まる物産店などと連携するといいい。
- ・協力してくれたら市のパンフレットに載せるなど、店主やオーナーのモチベーションになるようなものがあるといいい。
- ・物産店のほかに、日本語ボランティア教室にも外国人が集まるので、そういったところで周知してもらおうのもよいい。
- ・同じく「3 外国人への情報発信・情報提供の充実」のところで、防災についても入れてほしい。例えば、学校から不審者情報がメールで来ることもあるが、日本語だけなので、外国人の親としては正確な情報を知ることができると思いい。また防災無線の放送があっても、家の中では何を言っているかわからず、不安になったことがあつた。あとから市のLINEの通知で、何があつたかわかつたが、そのLINEの情報も日本語だけだつたので、多言語に対応したものがあつたといいい。
- ・自動翻訳のページへのリンクがあつているだけでも違いいと思いい。

## まとめ

- ・本日の意見をもとに提言書(案)を事務局で修正し、次回の会議で修正案について再度協議したうえで、提言内容を決めていくこととしました。

以上